

11/25 環境出前講座を開催

3Rの大切さについて学ぶ

小中一貫三戸学園三戸小学校（小林孝史学園長）の5年生59人を対象に、リサイクルやごみの分別について学ぶ環境出前講座が三戸小中学校第一体育館で行われました。講座では、町職員が町のごみ収集と資源ごみの分別について説明しました。その後、講師として招いた青森県地球温暖化防止活動推進員（アースレンジャー）3人が児童に向けて、おもちゃの生産を例に3R（リデュース・リユース・リサイクル）の大切さを伝える講座や「ペットボトルけん玉」と「牛乳パックびっくり箱」の工作体験を行いました。参加した長澤秀弥さんは「初めてペットボトルや牛乳パックでおもちゃを作ってみて楽しかったです。ほかの資源ごみでもいろいろなものを作りたい」と話しました。



資源ごみで工作体験



発表する生徒の皆さん

11/25 三戸高校 BMC が『サンノワ』で町の魅力を紹介
地域の魅力発信について手法を学ぶ

三戸高等学校ビジネスマネジメントコースの3年生9人は、五十嵐淳さん（サンノヘール代表、サンノワ編集長）を指導者として迎え、三戸郡の情報を発信する情報媒体『サンノワ』に掲載する記事の作成に取り組みました。この取り組みはBMCの独自科目「地域産業学習」の一環として6月から行われており、出身地の三戸郡や二戸市についての特産品やイベントなどを紹介したり、地域活性化のためにアイデアを出したりすることで、魅力発信力の向上を目標に行われました。今回の発表会では4班（三戸班、田子班、南部班、新郷・二戸班）に分かれ、8種類の記事を紹介。三戸班では、11ぴきのねこが案内するゴルフ場として「さんのへパークゴルフ場」の紹介や、「つつけ」を知ってもらうため「わんこそば」ならぬ「わんこつつけ」を考案しました。そのほか、田子町の「にんにくとべごまつり」、南部の「ジャックドまつり」、新郷村の「しんごうホワイトイルミネーション」、二戸市の「座敷わらし」などが紹介されました。今回発表された記事は、ローカルメディア『サンノワ』（<https://sannowa-scoop.jp/>）に公開されています。

11/30 石井さんが税の作文で「八戸税務署長賞」受賞

多くの人に税金の大切さを知ってほしい

第56回中学生の「税についての作文」に応募した石井愛望さん（小中一貫三戸学園三戸中8年）の作品が「八戸税務署長賞」を受賞しました。この賞は、管内から寄せられた275作品のうち2作品に与えられるものです。三戸学園校長室で行われた表彰状授与式では、八戸税務署の伊東浩美署長から石井さんに表彰状が授与されました。伊東署長は「応募作品の中でも石井さんの作品は、消費税や警察・消防の仕事などの『毎日の当たり前』は税金から成り立っていることが掘り下げられており、すばらしい」と感心しました。石井さんは「税金は大人が支払うイメージだったけれど、さまざまところで多くの人に関係していることを知りました。多くの人に税金の大切さを知ってほしい」と話しました。



表彰された石井さん

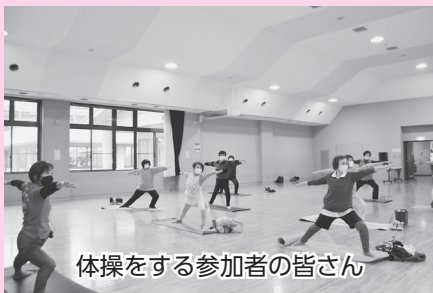
12/2 みちのくコカコーラボトリングと町が連携協定 災害時の飲料確保などで協力

みちのくコカコーラボトリング(株)と町は、防災・減災のほか、健康づくりやスポーツ・文化、地域振興について協力する内容の包括連携協定を締結しました。役場で行われた協定締結式では、同社の川村秀樹エリア営業本部長と松尾和彦町長が協定書を取り交わしました。また、交差点などの歩道に貼り、歩行者に注意喚起する「ストップマーク」50枚が寄贈されました。

川村本部長は「有事の際は、ライフラインとなる飲料を迅速に供給していきたい。また、ストップマークが横断歩道で立ち止まるきっかけとなってほしい」と話しました。松尾町長は「災害時における飲料の確保は非常に重要だと感じています。今後も多方面で協力していきたい」と話しました。



(左から) 川村本部長、松尾町長



体操をする参加者の皆さん

12/6 Enjoy が健康力アップ事業を実施

自分に合った運動で、健康力を高めよう！

(一社)さんのへスポーツクラブ Enjoy (松原栄子代表理事)は、スポーツを通じて健康力を高めたい人の手助けをする目的で「Enjoy 運動効果体験教室」を行いました(全12回)。20人の参加に対し、自分の時間や確保できるスペースに合った柔軟体操や筋力トレーニングなどを紹介しました。松原代表理事は「体操やニュースポーツも楽しんでもらえたようでうれしい。終わった後に『体が楽になった』と聞くと、実施して良かったと感じます」と手応えを感じていました。参加者は「家でも簡単に取り組めるような運動で、楽しく体を動かすことができました。これからも続けていきたい」と感想を話しました。

12/7 山田さんが旭日双光章を受章し、表敬訪問

長年、建設業に携わった功績が称えられる

(株)山田組の山田幸一社長は、長年にわたり、さまざまな建設業協会の役職に就きながら建設業界に携わってきた功績が称えられ、令和4年秋の叙勲「旭日双光章」を受章したことを松尾和彦町長に報告するため、役場を訪れました。山田社長は「建設業界の改善を意識し、自分なりにできることをしてきました。今後も時代とともにさまざまな変化が訪れると思いますが、何事も諦めずに取り組んでいきたい」と話しました。



(左から) 松尾町長、山田社長



お話を語る久慈会長

12/9 斗川小学校でおはなし会

お話を聞き、物語を想像する

絵本とお話を楽しむ会「ウヒアハ」(久慈英子会長)は、小中一貫三戸学園斗川小学校(小田桐幸春校長)で、全校児童を対象におはなし会を行いました。おはなし会では、会員8人が子どもたちに向けて、昔話や外国のお話を語りました。子どもたちは「絵を見ずにお話を聞くことで、いろいろな物語を想像できて楽しかった」と感想を話しました。久慈会長は「語りを心で聞いてくれて、私たちも楽しかったです。語りを聞いた子どもたちの心が和やかになってくれたらうれしい」と願いました。

12/15 明治安田生命と町が連携協定

持続可能なまちづくりに向け、力を合わせる

明治安田生命保険相互会社と町は、健康やスポーツ、地域の活性化および町民サービスの向上を目的とする包括連携協定を締結しました。役場で行われた協定締結式では、同社八戸支社の齋藤浩二郎支社長と松尾和彦町長が協定書を取り交わしました。

齋藤支社長は「三戸町の健康で活気あふれるまちづくりに貢献していきたい」と話しました。松尾町長は「本協定を契機に、地域社会と住民の持続可能なまちづくりに向けて、より強固な関係を築いていきたい」と話しました。



(左から) 松尾町長、齋藤支社長



松尾町長に質問する児童

12/16,21 三戸小で「町長と語る会」

ふるさとについて町長と語り合う

小中一貫三戸学園三戸小学校（小林孝史校長）の6年生を対象に「町長と語る会」（主催：三戸町教育振興協議会 中村孝範会長）が行われました。町長と語る会は、児童生徒が三戸町について町長と語り合うことにより、ふるさとに対する理解を深め、豊かなふるさとを創造していく力を育成するために行われています。児童の「三戸町で生活していく上で大切にしたいことは何ですか」という質問に対し松尾和彦町長は「高齢者に対して優しく、そして敬って接してほしい。その行動は必ず自分たちにも返ってくる」と答えました。そのほか、児童は松尾町長に対し、三戸町を盛り上げるためのアイデアについてタブレットを使って堂々と発表しました。

1/5 三戸町新年会

気持ちを新たに、新年を祝う

三戸町民体育館で三戸町新年会を開催し、参加者約150人が新年を祝いました。松尾和彦町長は「皆さんが健康で安心して暮らされ続けられるまちの実現に全力で取り組みます」と新年の抱負を述べました。表彰式では、長年の功績を称え、対象者9人と1団体が表彰を受けました（詳細は20ページ）。



会場のようす



フィリピンの学生と交流

1/5,6,10 中学生対象のオンライン留学を実施

フィリピンの人たちと楽しく英語を学ぶ

三戸町教育委員会は、8年生を対象に姉妹都市のタムワースへ派遣する「中学生海外研修派遣事業」の代替事業として、フィリピンとのオンラインによる3日間の短期留学を実施しました。この事業は、外国人教師と1対1で行う英会話レッスンや現地の街並みを知るライブツアー、現地の高校生と会話や質問による交流を行うことで、英語力の向上や異文化に対する理解を深めました。オンライン留学を体験した杉中ありすさんは「フィリピンの人たちが明るく話してくれて、楽しく英語を学ぶことができました。」と感想を話しました。